

政府が主催する国際会議等での日本酒・焼酎の活用について (ENJOY JAPANESE KOKUSHU 推進協議会としての考え方)

平成 24 年 7 月 26 日

政府主催の国際会議、レセプション等の選定基準

「ENJOY JAPANESE KOKUSHU（國酒を楽しもう）」プロジェクトの立ち上げについて（平成 24 年 5 月 11 日古川国家戦略担当大臣決定）においては、「政府等主催行事での日本酒・焼酎の効果的活用」が盛り込まれているが、政府が主催する国際会議、レセプション等の中には日本酒・焼酎（泡盛を含む。以下同じ。）の認知度向上および輸出促進の観点から、非常に重要な機会となりうるものがあると認識。

具体的には、以下の要件を満たす政府主催の国際会議、レセプション等については、当推進協議会としても日本酒・焼酎の認知度向上および輸出促進の観点から戦略的に非常に重要と捉え、日本酒・焼酎の積極的活用を推奨したい。

また、以下の要件を満たす政府主催の国際会議、レセプション等については、本プロジェクトによる所要のバックアップも視野に入れる。

■選定基準

1. 会議・レセプション等の主催者が大臣級であること。
2. 海外市場に対する発信力、影響力の大きい各国要人等が参加していること。
3. 日本酒・焼酎等を提供することにより、日本文化の振興や日本料理・現地料理等とのマリアージュを表現できること。
4. 会議・レセプション等について、テーマ、開催地域等、他の要素を総合的に勘案すると、日本酒・焼酎の認知度向上および輸出促進の観点に照らし国家戦略としての重要性が認められること。

日本酒・焼酎の銘柄選定の考え方

以上の要件を満たす政府主催の国際会議・レセプション等（以下、「イベント」という。）における日本酒・焼酎の銘柄選定については、選定に係る透明性、公正性確保の観点から、以下の考え方により、主催官庁等において決定することが期待される。

■銘柄選定の考え方

1. 日本酒の場合、主催者である日本酒造組合中央会が、全国新酒鑑評会における過去5年間の金賞受賞製造場を中心にリスト（毎年更新）を、（平成 25 年度まで）共催先である酒類総合研究所の協力を得て作成する。
2. ENJOY JAPANESE KOKUSHU 推進協議会は、前述のイベントの主催官庁等に対し、上記リストを銘柄選定の有力な参考情報として提供する。
3. 主催官庁等は、同リストを参考にしつつ、各イベントに関する他の要素（イベントテーマ、開催地域、食事との組合せ等）（注）も考慮の上、日本酒を選定する。
（注）イベントを機に日本酒が紹介され、将来的な輸出拡大につながりうることを勘案すれば、他に考慮すべき要素としては、
 - ① 輸出（又は輸出を予定）している製造者の銘柄か、
 - ② 通年で販売されているなど一定量の販売が確保されているか、
 - ③ 直近1年間にコンプライアンス上の問題を起こしていないか、等が考えられる。

※ なお、主催官庁等が日本酒を選定する際には、上記リストのほかに、日本酒造組合中央会が作成した「組合員名簿」（直近3年間の鑑評会をはじめとする各種受賞歴等の情報入り。要定期更新）も参考情報となる。

4. 焼酎についても、同様の考え方を準用する。

（以上）